

日本労働年鑑 第51集 1981年版  
The Labour Year Book of Japan 1981

第二部 労働運動

XIV 政党

6 民社党

3 大会・中央委員会

第一六回拡中委

民社党第一六回拡大中央委員会は七九年八月二一日、東京・平河町の都道府県会館別館に中央委員および全国の衆議院議員候補者の選対責任者二〇〇人を集めて開かれた。この拡大中央委は、秋に予想された総選挙にむけての態勢固めをはかるものであった。佐々木委員長は冒頭のあいさつで、総選挙の意義として、(1)腐敗政治からの訣別の闘いとする、(2)増税反対で対決する、(3)責任野党勢力の議席増で五五年体制を後退させる、の三点を強調した。ついで天池同盟会長の来賓あいさつ、塚本書記長の党務報告、春日常任顧問の衆議院議員候補者選考経過報告、藤井選対委員長の総選挙対策の提案、大内政審会長の総選挙政策の提案がおこなわれ、中央委はこれを承認した。中央委は最後に「民社党が伸びれば日本は良くなるとの信念のもとに、今次総選挙に党及びすべての支持団体のもてる力を総結集し、議席倍増の勝利へ向って驀進する」との宣言を採択し閉会した(『週刊民社』七九年八月三一日付参照)。

第二五回全国大会

民社党第二五回定期全国大会は、八〇年四月一五、一六の両日、東京・九段会館で開かれた。この大会は、結党二〇周年を迎えた民社党が、一九八〇年代は、「連合の時代」であるとして「中道連合政権」の樹立を展望するとともに、「自民党一党支配の打破」をめざし、目前に迫った参院選にむけての総決起集会としての性格ももっていた。

大会冒頭、あいさつに立った佐々木委員長は、参院選の最大の課題として「自民党一党支配の打破」を訴え、そのために社公民三党の選挙協力の重要性を強調した。ついで参院選における重点課題として、(1)政治の浄化と政治倫理の確立、(2)物価高騰、福祉後退からの国民生活の防衛、(3)平和と安全の問題の三つをあげ、これを国民に訴えることを表明した。また「連合政権」問題では「目下の段階で、軽々な予測はおこなうべきでない」と述べ、当面は(1)党勢の拡大、(2)連合政権の政策準備、(3)幅広い多数派結集への努力と模索、に力を入れることを表明した。最後に佐々木委員長は「一枚岩的党の団結」をもとめ「政党は公党であって私党ではない」ことを強調したが、これは民社党内に大きな影響力をもち、「春日院政」ととりざたされる春日常任顧問にむけられた言葉ととるむきが少なくなかった。

大会経過

委員長あいさつにつづき、来賓あいさつがあり、竹入公明党委員長、宇佐美同盟会長、関嘉彦民社研議長、岡村中立労連議長、森田弥一全国中小企業団体中央会組織委員長が祝辞を述べた。

このあと塚本書記長の党務報告、永末国会対策委員長の国会活動報告、渡辺総務局長の決算報告、岡田会計監査の会計監査報告、安里統制委員長の統制委員会報告があり、質疑の後満場一致で承認された。また報告のあいだに、総評加盟の鉄鋼労連の中村委員長がかけつけ、鉄鋼労連と政策推進労組会議を代表して、参議院選での民社党支持を表明した。

議事の最初は役員補充に関する件で、中沢いと子、小川泰の両中執の辞任を認め、その補充につき役員選挙委員会に付託された。ここで「違法ストを糾弾する決議」が緊急上程され、満場の拍手で採択された。この後一九八〇年度運動方針に関する件をはじめとする諸議案の提案説明があり、質疑の後、二つの分科会に付託された。

第二日の午前は分科会討議で運動方針・予算の第一分科会、政策の第二分科会にわかれて議案の審議がおこなわれた。午後はふたたび全体会議で、まず大本役員選挙委員長から一木香告樹、永江一仁の両氏を中執の補充として推薦したい、との提案があり、満場一致でこれを承認した。ついで、渡辺総務局長から名誉党員として曾禰益と中沢いと子の両氏を推挙したいとの提案があり、拍手でこれを承認した。つづいて二つの分科会の報告がおこなわれ、一九八〇年度運動方針、同政策、予算は本部提案どおり可決された。このあと党員表彰につづいて諸決議の採択、参院選候補者の紹介があり、最後に「八〇年代の主役は民社党である」との大会宣言を採択して閉会した。

## 第一七回拡中委

民社党第一七回拡大中央委員会は八〇年二月一二日、東京・永田町の都道府県会館に中央委員、本部役員など一九四人を集めて開かれた。この中央委員会は参議院議員選挙にむけて全党の態勢を固めるためのものであった。冒頭のあいさつで、佐々木委員長は公明党とのあいだで合意した「中道政権構想」についてふれ、これは「五五年体制の打破崩壊を出発点とし、現体制の構造的変革を求めるもの」であると位置づけ、今後、中道四党の結束強化をはかる方針を明らかにした。また社公連合政権構想について「第一ラウンドの結論としては、その成果を評価し、社会党の決断に敬意を表する」と述べた。また当面する重要政策課題として(1)平和と安全、(2)国民の生活防衛、(3)行政改革の徹底の三点をあげた。このあと来賓あいさつに立った宇佐美同盟会長は「参院選では民社党候補勝利のため全力を尽くす。党は制度・政策実現に努力してほしい」と述べた。つづいて塚本書記長の党務報告、春日常任顧問の参院選対策の提案があり、質疑ののちこれを承認した。この後第一次公認候補九人の決意表明があり、「参院選勝利のため本日より行動を」との宣言を採択して閉会した。

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

\*\*\*\*年\*\*月\*\*日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---